

ダイヤフラムバルブ 自在ダイヤフラムバルブ エア式 AI 型

取扱説明書



このたびは、弊社製品をご採用いただきまして、ありがとうございます。

この取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用いただくための重要な事柄について記載していますので、製品を取り扱う前に必ずお読みください。
なお、お読みになられた後は、お使いになられる方がいつでも見ることが出来る場所に必ず保管していただきますよう、よろしくお願いいたします。

旭有機材株式会社

-安全にご使用いただくために-

この取扱説明書は、弊社製品を取り扱われる方が当社製品、電気、機械、制御等の基本的な知識をお持ちであることを前提として書かれており、取扱い内容によっては専門用語を含んでいます。

この取扱説明書を熟読し、内容を十分に理解され、安全事項を順守して正しく使用してください。

この取扱説明書では、人的障害や物的損害の状況、及び規模をお知らせするために、特に重要とされる事象について「警告」「注意」「禁止」「強制」の内容をマークとともに区分して記載しています。

順守しなかった場合、思わぬ障害や損害が発生する可能性がありますので、必ず順守されますよう、よろしくお願いいたします。

<警告・注意表示>

 警告	製品の取り扱いを誤った場合、「 死亡または重傷を負うことが想定される内容 」です。
 注意	製品の取り扱いを誤った場合、「 傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容 」です。

<禁止・強制表示>

 禁止	製品の取扱いにおいて、「 行ってはいけない内容 」で禁止します。
 強制	製品の取扱いにおいて、「 必ず行っていただく内容 」で強制します。

目次

1. 弊社製品の保証内容について	4
適用対象	4
保証期間	4
保証範囲	4
免責事項	4
2. 安全上のご注意	5
開梱・運搬・保管	5
製品の取り扱い	6
3. 各部品の名称	8
4. 製品の仕様	9
型番表	9
最高許容圧力と温度の関係	10
アクチュエータ	11
標準オプション	12
5. 配管方法	16
フランジ形	16
ねじ込み形	18
ソケット形（接着）	20
ソケット形、スピゴット形（溶着）	22
製品の支持	24
6. エア配管方法	28
7. 結線方法	32
リミットスイッチ	32
電磁弁	35
8. 試運転方法	37
9. ストッパーの調整・操作方法	41
10. 部品交換のための分解/組立方法	46
11. 点検項目	48
日常点検	49
定期点検	50
12. 不具合の原因と処置方法	52
13. 残材・廃材の処理方法	55
お問合せ先	56

1. 弊社製品の保証内容について

契約書、仕様書等に特記事項のない場合、弊社が製造・販売するバルブ等の配管材料製品（以下、「対象製品」といいます。）の保証内容は以下のとおりとなります。

適用対象

この保証は対象製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外でご使用になられる場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

保証期間

保証期間は、納入後 1 年間といたします。

保証範囲

上記保証期間中に弊社の責任による故障や不具合が生じた場合は、代替品との交換、または修理を無償で実施いたします。

ただし、保証期間内であっても、次に該当する場合は保証の対象外（有償でのご対応）といたします。

- ▶ 施工・据付・取扱い、及びメンテナンス等において、仕様書・取扱説明書等に記載された保管・使用条件や注意事項等が守られていない場合。
- ▶ お客さまの装置やソフトウェアの設計等、対象製品以外に起因した不具合の場合。
- ▶ 弊社以外による製品の改造・二次加工に起因した不具合の場合。
- ▶ 取扱説明書等に記載された定期点検や消耗部品の保守・交換が正常に実施されていれば回避できたと認められる不具合の場合。
- ▶ 部品をその製品の本来の使い方以外にご使用になられた場合。
- ▶ 弊社出荷時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障や不具合の場合。
- ▶ 天災・災害等の弊社の責任ではない外部要因による不具合の場合。

免責事項

- ▶ 弊社製品の故障に起因する二次災害（装置の損傷、機会損失、逸失利益等）、及びいかなる損害も補償の対象外とさせていただきます。
- ▶ 弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体、または財産を侵害するおそれのある設備等にご使用になられる場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。
- ▶ 弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願いいたします。お客様がこれらを怠ったことによりお客様に損害が発生した場合、弊社は一切の責任を負わないものとします。ただし、お客さまに生じた損害が、弊社製品の欠陥による場合はこの限りではありません。

2. 安全上のご注意

開梱・運搬・保管

 警告	
 禁止	重傷を負うおそれがあります。 ▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。
 注意	
 禁止	バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ 投げ出しや落下、打撃などによる衝撃を与えないでください。 ▶ ナイフや手かぎなどの鋭利な物体で、引っかきや突き刺しなどをしないでください。 ▶ ダンボール梱包は、荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。 ▶ コールタール、クレオソート（木材用防腐剤）、白あり駆除剤、殺虫剤、塗料などに接触させないでください。
 強制	バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ 配管直前までダンボールに入れたまま、直射日光を避けて、屋内（室温）で保管してください。また、高温になる場所での保管も避けてください。（ダンボール梱包は水などに濡れると強度が低下します。保管や取扱いには十分注意してください） ▶ 開梱後、製品に異常がないか、仕様と合致しているかを確認してください。

製品の取り扱い

 警告	
 禁止	重傷を負うおそれがあります。 ▶ アクチュエータは分解しないでください。 ▶ 運転中の可動部に、手足や工具などで触れないでください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 弊社樹脂製配管材料に陽圧の気体を使用される場合は、水圧と同値であっても圧縮性流体特有の反発力により、危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆するなど、周辺への安全対策を必ず施してご使用願います。なお、ご不明な点がございましたら、別途、弊社にお問い合わせください。 ▶ 配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合は、必ず水圧で確認してください。止むを得ず気体で試験を行う場合は、事前に弊社へご相談ください。

 注意	
 禁止	バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ バルブに乗ったり、重量物を載せたりしないでください。 ▶ 火気や高温な物体に接近させないでください。 ▶ 水没する可能性のある場所では、使用しないでください。 ▶ バルブに大きな振動を与えないでください。

 注意 **強制**

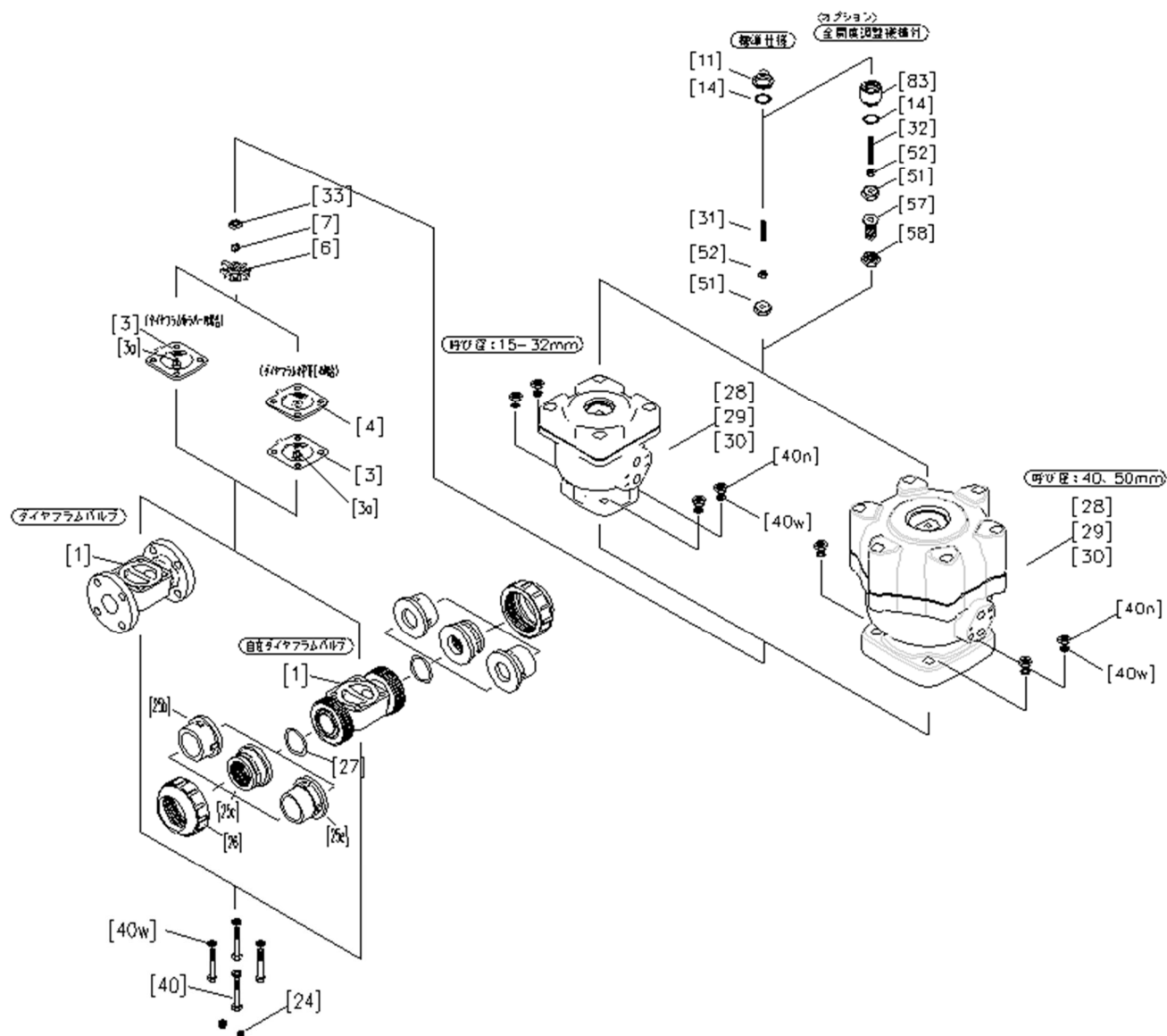
ケガをするおそれがあります。

- ▶ 手動操作は付属のハンドル、もしくはメーカー指定の工具で行ってください。
- ▶ 手動操作を行うときは、アクチュエータがモータによって作動していないことを確認してください。
- ▶ 保守点検が出来るスペースを十分確保して配管してください。

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ ご使用前に使用電源と銘板の電圧を確認してください。
- ▶ バルブを据え付ける場所の雰囲気注意到意してください。特に潮風、腐食性ガス、化学薬液、海水、蒸気などにさらされる場所は避けてください。
- ▶ 流体の圧力と温度は、許容範囲内で使用してください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です)
- ▶ 使用条件に適した材質のバルブを使用してください。(薬液の種類によっては部品が侵されるおそれがありますので、詳細については弊社へ事前にご相談ください)
- ▶ 結晶性物質を含んだ流体は、再結晶しない条件で使用してください。
- ▶ 常時、水や粉じんなどが飛び散る場所、及び直射日光のあたる場所は避けるか、または全体を覆うカバーなどでバルブを保護してください。
- ▶ 「11.点検項目」を参照して、定期的にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化に注意してください。
- ▶ 全閉時に内部漏れを生じた場合は、ストッパー調整を行ってください。
- ▶ バルブ設置時にはバルブや配管に無理な力が加わらないように、適切なバルブサポートを施してください。
- ▶ 必ず表示された製品仕様内で使用してください。
- ▶ 異臭や発熱、発煙した場合は、直ちに供給電源を切ってください。異常が認められた場合は、必ずお買い上げの販売店、または弊社まで点検をご相談ください。
- ▶ 据付場所の周囲温度は、-10～50℃の範囲内にしてください。
- ▶ 揮発性ガスや雰囲気の悪い場所は避け、全体を覆うカバーなどを設けてください。
- ▶ 操作エアは、除湿や除塵がされた清浄なものを使用してください。ただし、露点が-40℃以下の高乾燥エアを使用する場合は、事前に弊社へご相談ください。

3. 各部品の名称



[1]	ボディ	[25b]	ボディキャップ(ソケット形)	[33]	コンプレッサー押さえ
[3]	ダイヤフラム	[25c]	ボディキャップ(ねじ込み形)	[40]	ボルト(No.40)
[3a]	ダイヤフラム埋込金具	[25e]	ボディキャップ(スピゴット形)	[40 n]	ナット(No.40)
[4]	クッション	[26]	キャップナット	[40w]	ワッシャ(No.40)
[6]	コンプレッサー	[27]	O リング(No.27)	[51]	エア式ストッパー
[7]	ジョイント金具	[28]	アクチュエータ(復動)	[52]	ナット(No.52)
[11]	ゲージカバー	[29]	アクチュエータ(逆作動)	[57]	開度調整台
[14]	O リング(No.14)	[30]	アクチュエータ(正作動)	[58]	ナット(No.58)
[21]	ねじ	[31]	表示ロッド	[83]	アダプタ
[24]	ボディ用エンザート	[32]	表示ロッド(開度調整機構用)		

4. 製品の仕様

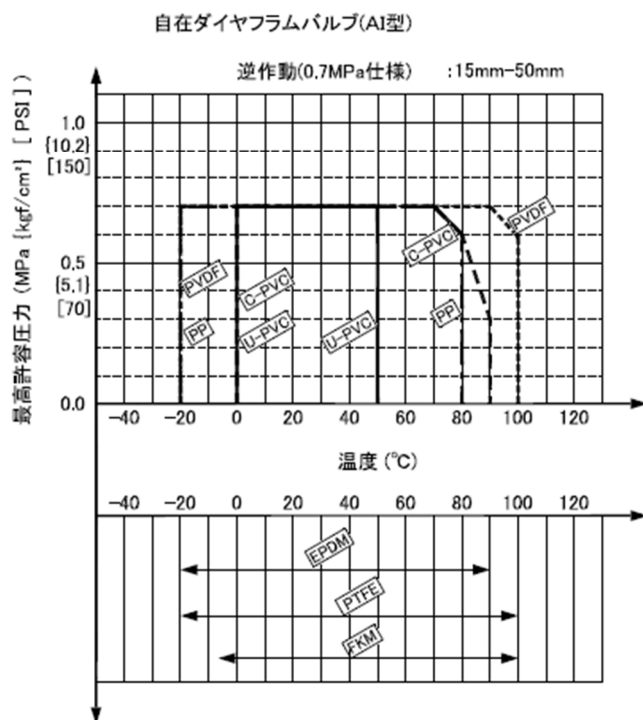
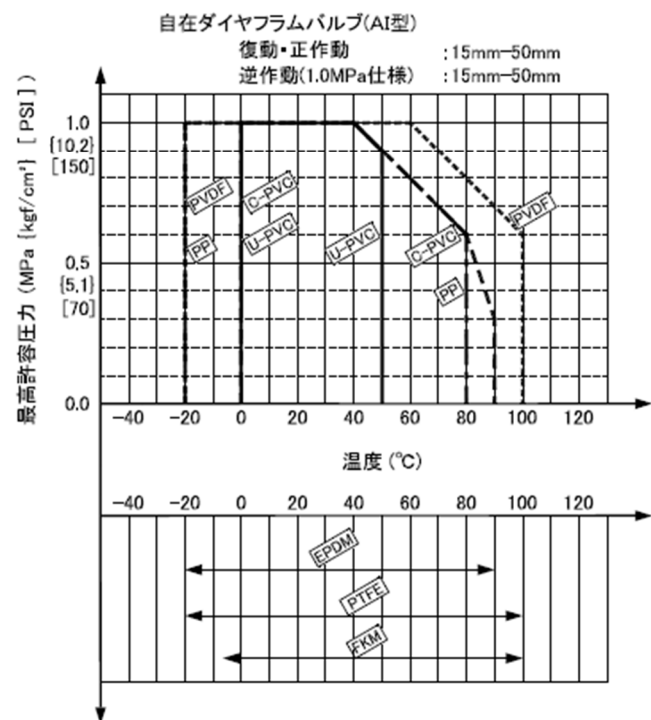
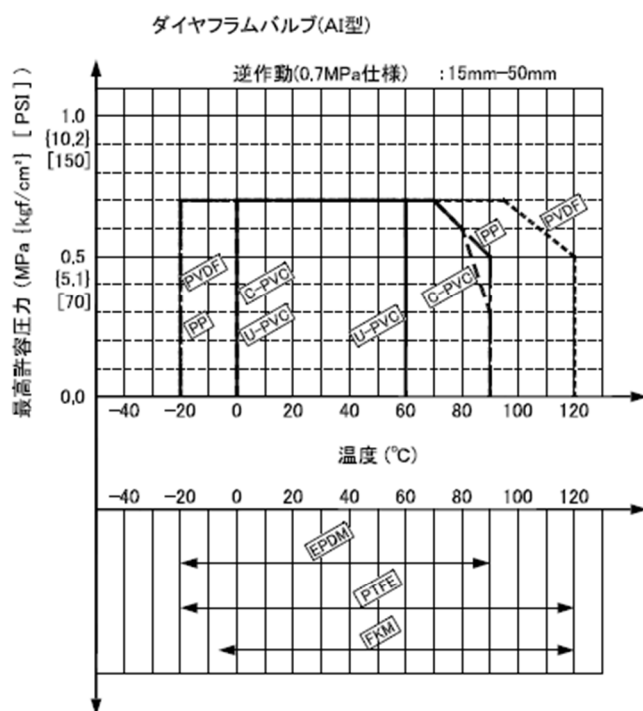
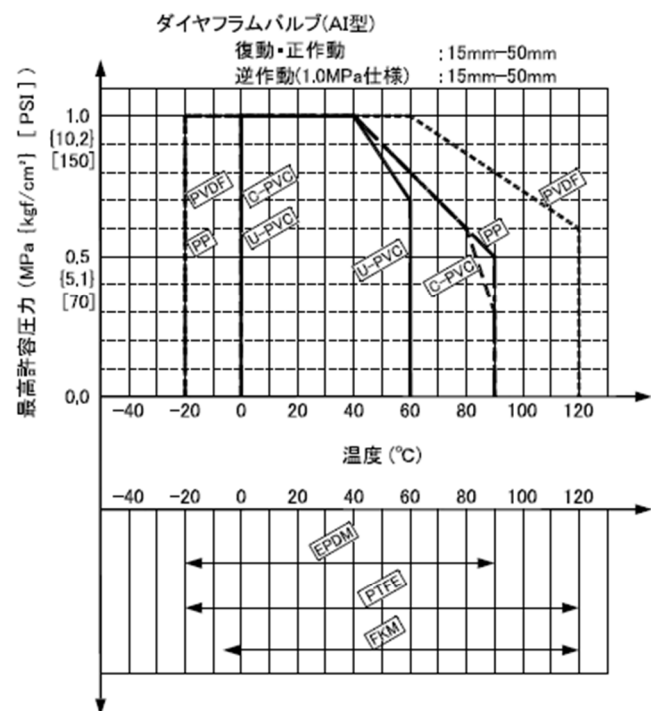
型番表

駆動	型式	駆動部型式	作動方式	ボディ材質	シール材質	接続	規格	呼び径	超純シリーズ
A	DA	I	*	*	*	F	*	***	1
A 自動弁	DA ダイアフラム	I AI型	F 復動(1.0MPa仕様) G 逆作動(0.7MPa仕様) H 逆作動(1.0MPa仕様) S 正作動(1.0MPa仕様)	U U-PVC C C-PVC P PP F PVDF	E EPDM V FKM T PTFE	F フランジ形	1 JIS 10K D DIN A ANSI	015 15mm 020 20mm 025 25mm 032 32mm 040 40mm 050 50mm	1 禁油品

駆動	型式	駆動部型式	作動方式	ボディ材質	シール材質	接続	規格	呼び径	超純シリーズ
A	TA	I	*	*	*	*	*	***	1
A 自動弁	TA 自在ダイアフラム	I AI型	F 復動(1.0MPa仕様) G 逆作動(0.7MPa仕様) H 逆作動(1.0MPa仕様) S 正作動(1.0MPa仕様)	U U-PVC C C-PVC P PP F PVDF	E EPDM V FKM 1 PTFE+EPDM 2 PTFE+FKM	S ソケット形 N ねじ込み形 P スビゴット形	J JIS D DIN A ANSI	015 15mm 020 20mm 025 25mm 032 32mm 040 40mm 050 50mm	1 禁油品

注 ・ JIS5K 規格は製造しておりません。

最高許容圧力と温度の関係



アクチュエータ

呼び径 (mm)		15, 20	25, 32	40	50	
操作圧力 (MPa)		復動・正作動	0.4～0.6			
		逆作動 0.7MPa 仕様	0.4～0.6			
		逆作動 1.0MPa 仕様	0.5～0.6			
空気消費量 NL／開閉	操作圧力 0.4MPa 時	復 動	0.89	1.29	4.35	4.80
		正作動	0.54	0.79	2.63	2.82
		逆作動 0.7MPa 仕様	0.35	0.49	1.73	1.98
	操作圧力 0.5MPa 時	逆作動 1.0MPa 仕様	0.42	0.59	2.08	2.37
空気供給口径		復動・逆作動・正作動	Rc 1/4			

標準オプション

オプション名	目的・仕様	備考
電磁弁	・バルブの開閉を制御 ・後付け可能 ・以下の製品は、専用の電磁弁プレートも必要 * 復動 は不要 * 逆作動 15～50mm * 正作動 15～50mm ・排気口に、絞り弁付サイレンサを標準装備 ・バイパスバルブを内蔵	15 to 50mm
フィルタ付減圧弁	・操作エアの圧力を調整 ・電磁弁付に限り、後付け可能（単独取付は不可）	15 to 50mm
スピードコントローラ	・アクチュエータの作動時間を調整 ・後付け可能 ・メータアウト方式	15 to 50mm
バイパスバルブ	・復動を手動操作するときを使用 ・電磁弁無しに限り後付け可能 ・スピードコントローラを内蔵	15 to 50mm
リミットスイッチボックス	・バルブの開閉状態を検出	15 to 50mm
リミットスイッチ	・バルブの開閉状態を検出	15 to 50mm
電空ポジショナ	・電気信号（DC4～20mA）に比例してバルブを制御	15 to 50mm
空空ポジショナ	・空気信号（0.02～0.1MPa）に比例してバルブを制御	15 to 50mm
手動操作機構	・電源喪失時にバルブの開閉が可能	15 to 50mm
全開度調整機構	・0～100%の範囲で任意の開度に設定可能	15 to 50mm
開閉カウンタ	・アクチュエータの開閉回数をカウント	15 to 50mm
金属インサート (ボトムスタンド用)	・バルブをサポートするための金属製めねじ	15 to 50mm

電磁弁

作 動	呼び径	型式記号	配管口径	有効断面積	消費電力	付加機能
復 動 逆作動 正作動	15～50 mm	4N3S102K- W□-G31193	Rc 1/4	10mm ² 以上	AC：6VA DC：5.5W	○パ イ スバルブ 内蔵 ○絞り弁付サイレンサ取付 (スピードコントローラとして使用)

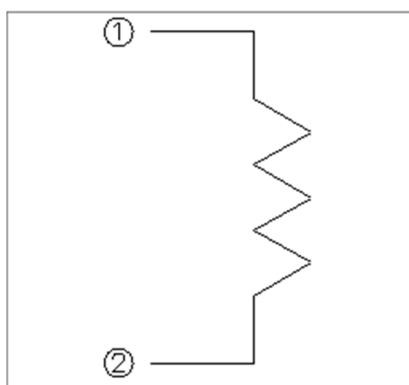
4N3S102K-W□-G31193



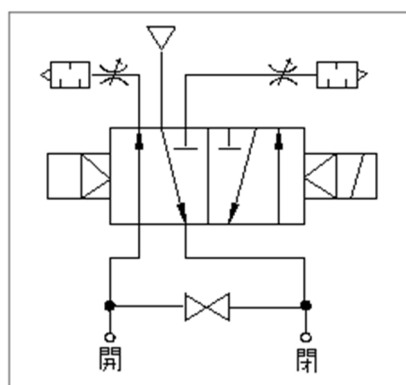
定格電流	記入文字
AC100V 50/60Hz	1
AC110V 50/60Hz	(2)
AC200V 50/60Hz	3
AC220V 50/60Hz	(4)
DC 24V	5

※ () 付記入文字は特殊品です。

結線図



JIS 記号



リミットスイッチ

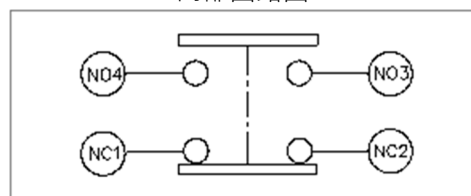
●リミットスイッチ型式: 1LS19-J の場合

作動	呼び径	型式記号	保護等級
復動・逆作動・正作動	15～50 mm	1LS19-J	IP67(IEC529)

リミットスイッチ定格

定格電流(V)	抵抗負荷(A)	誘導負荷(A)
AC125	10	6
AC250	10	6
DC115	0.8	0.2
DC230	0.4	0.1

内部回路図



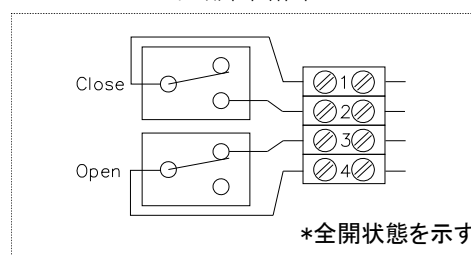
●リミットスイッチボックスの場合

作動	呼び径	型式記号	保護等級
復動・逆作動・正作動	15～32 mm	HPCR4MVAZ15	IP65(IEC529)
	40,50 mm	HPCR4MVAZ30	

リミットスイッチ定格

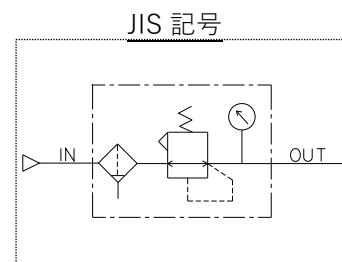
定格電流(V)	抵抗負荷(A)
AC250	5.0

内部回路図



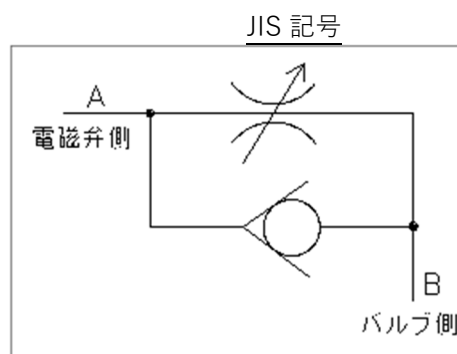
フィルタ付減圧弁

作動	呼び径	型式記号	配管口径	エレメント 濾過度
復 動 逆作動 正作動	15～50 mm	ARU2-02-8A-G	RC 1/4	5 μm


スピードコントローラ

作動	呼び径	型式記号	配管口径
復 動 逆作動 正作動	15～50 mm	SC7-08A	RC 1/4

作動	有効断面積(mm ²)		ニードル 回転数
	自由流れ	制御流れ	
復 動 逆作動 正作動	11.0	8.3	8 回転



5. 配管方法

フランジ形

 警告

重傷を負うおそれがあります。

- ▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。

 注意

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ キャップナットを締め過ぎないでください。
- ▶ キャップナットを締める際にパイプレンチを使用しないでください。
- ▶ 配管用ボルト・ナットを「表 5-2 フランジ締付規定トルク値」以上で締め付けしないでください。



ケガをするおそれがあります。

- ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。
- ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ 配管やバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。
- ▶ 配管施工時、または分解組立の際は、ボディキャップを固定させて作業を行ってください。
- ▶ バルブを管末に取り付ける際は、二次側（下流側）のキャップナットとボディキャップは、必ず装着しておいてください。
- ▶ 金属製の配管に接続する際は、バルブに配管応力が加わらないようにしてください。
- ▶ 接続フランジは全面座のものを使用してください。
- ▶ 相互フランジ規格に違いがないように確認してください。
- ▶ フランジ間には必ずシール用ガスケット(AV パッキン)を使用し、配管用ボルト・ナットを「表 5-2 フランジ締付規定トルク値」で締め付けてください。(AV パッキン以外の場合は、締付トルク値が変わります)
- ▶ フランジ面の軸芯ズレと平行度は「表 5-1 軸芯ズレと平行度」の数値以下にしてください。
- ▶ 配管用ボルト・ナットは「表 5-2 フランジ締付規定トルク値」で対角線上に締め付けてください。

準備するもの	▶ トルクレンチ	▶ AV パッキン
--------	----------	-----------

[手順]

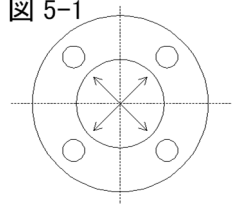
- 1) フランジ間にパッキンをセットします。
- 2) 連結フランジ側からワッシャとボルトを入れ、バルブ側からワッシャとナットを入れて、手による仮締めを行います。

 注意										
 強制	配管に応力が加わり破損するおそれがあります。 ▶ フランジ面の平行度並びに軸芯ズレの寸法は下記の表の数値以下にしてください。									
	表 5-1 軸芯ズレと平行度									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径 (mm)</th> <th>軸芯ズレ</th> <th>平行度 (a-b)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15～32</td> <td>1.0 mm</td> <td>0.5 mm</td> </tr> <tr> <td>40, 50</td> <td>1.0 mm</td> <td>0.8 mm</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径 (mm)	軸芯ズレ	平行度 (a-b)	15～32	1.0 mm	0.5 mm	40, 50	1.0 mm	0.8 mm
呼び径 (mm)	軸芯ズレ	平行度 (a-b)								
15～32	1.0 mm	0.5 mm								
40, 50	1.0 mm	0.8 mm								

- 3) 徐々に規定トルク値まで対角線上(図 5-1 参照)にトルクレンチで締め付けます。

 注意														
 強制	破損する、または漏れるおそれがあります。 ▶ 接続フランジのボルト・ナットは対角線上に規定トルクで締付けてください。													
	表 5-2 フランジ締め付規定トルク値													
	単位：N-m {kgf-cm} <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径(mm)</th> <th>15, 20 mm</th> <th>25～40 mm</th> <th>50 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PTFE・PVDF(被覆)</td> <td>17.5{179}</td> <td>20.0{204}</td> <td>22.5{250}</td> </tr> <tr> <td>ラバー</td> <td>8.0{82}</td> <td>20.0{204}</td> <td>22.5{250}</td> </tr> </tbody> </table>			呼び径(mm)	15, 20 mm	25～40 mm	50 mm	PTFE・PVDF(被覆)	17.5{179}	20.0{204}	22.5{250}	ラバー	8.0{82}	20.0{204}
呼び径(mm)	15, 20 mm	25～40 mm	50 mm											
PTFE・PVDF(被覆)	17.5{179}	20.0{204}	22.5{250}											
ラバー	8.0{82}	20.0{204}	22.5{250}											

図 5-1



ねじ込み形

 警告	
 禁止	重傷を負うおそれがあります。 ▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。

 注意	
 禁止	バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ 接合部のねじは締め過ぎないでください。 ▶ キャップナットを締め過ぎないでください。 ▶ キャップナットを締める際にパイプレンチを使用しないでください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。 ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。 バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ この製品のキャップナットは、ゆるめやすいように軽く締め付けられています。必ずボディキャップを取り外してから施工してください。 ▶ 配管やバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。 ▶ 配管施工時、または分解組立の際は、ボディキャップを固定させて作業を行ってください。 ▶ バルブを管末に取り付ける際は、二次側（下流側）のキャップナットとボディキャップは、必ず装着しておいてください。 ▶ 金属製の配管に接続する際は、バルブに配管応力が加わらないようにしてください。 ▶ 接合部のねじが樹脂製であることを確認してください。 ▶ ねじ込み部のシール材は、シールテープを使用してください。液状シール剤や液状ガスケットを使用した場合、ストレスクラック(環境応力割れ)を起こす可能性があります。

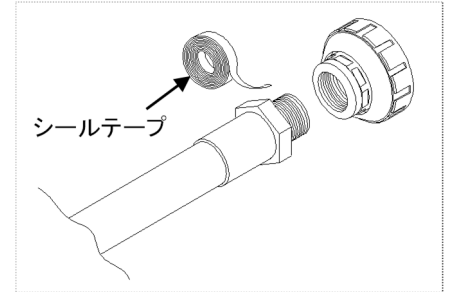
:-----:

 : 準備するもの : ▶ シールテープ ▶ ベルトレンチ ▶ スパナ :

 :-----:

[手順]

- 1) 継手のおねじにシールテープを先端約 3mm 残して巻き付けます。
- 2) ベルトレンチでキャップナット[26]を緩めます。
- 3) キャップナット[26]とボディキャップ[25]を外します。
- 4) キャップナット[26]とボディキャップ[25]を外します。
- 5) 傷付けないようにボディキャップ[25]をスパナで 1/2～1 回転ねじ込みます。
- 6) O リング(C)[27]が正しく装着されているのを確認します。
- 7) ボディ側にボディキャップ[25]及びキャップナット[26]を O リング(C)[27]が外れないように接触させます。
- 8) キャップナット[26]を手できつくなるまで締め付けます。
- 9) キャップナット[26]を傷付けないようにベルトレンチで 1/4 ～1/2 回転ねじ込みます。



ソケット形（接着）

 警告 **禁止**

重傷を負うおそれがあります。

▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。

火災や爆発が発生するおそれがあります。

▶ 接着剤を使用するときは換気を十分に行い、周囲で火気の使用を使用しないでください。

 注意 **禁止**

ケガをするおそれがあります。

▶ 接着剤は揮発性溶剤を含んでいますので、直接臭気を吸わないでください。

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

▶ 接着剤を塗り過ぎないでください。塗り過ぎた接着剤がバルブ内に流れ込みます。

▶ パイプをボディキャップに挿入するときに叩き込まないでください。

▶ キャップナットを締め過ぎないでください。

▶ キャップナットを締める際にパイプレンチを使用しないでください。

 強制

ケガをするおそれがあります。

▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。

▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。

▶ 接着剤が皮膚に付着したときは、速やかに落としてください。

▶ 接着剤を使用するときに気分が悪くなった、または異常を感じたときは、速やかに医師の診断を受け、適切な処置をしてください。

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

▶ この製品のキャップナットは、ゆるめやすいように軽く締め付けられています。必ずボディキャップを取り外してから施工してください。

▶ 配管やバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。

▶ 配管施工時、または分解組立の際は、ボディキャップを固定させて作業を行ってください。

▶ バルブを管末に取り付ける際は、二次側（下流側）のキャップナットとボディキャップは、必ず装着しておいてください。

▶ 低温下での施工は、溶剤蒸気が蒸発しにくく残存しやすくなるので、注意してください。

▶ 配管後は、パイプの両端を開放するとともに、送風機(低圧仕様のもの)などで通風して、溶剤蒸気を除去してください。

▶ 接着剤は材質に応じた「ASAHI AV 接着剤」を使用してください。

▶ 通水試験は、接着完了後、24 時間以上経過してから行ってください。

準備するもの	▶ ASAHI AV 接着剤	▶ ベルトレンチ
--------	----------------	----------

[手順]

- 1) ベルトレンチでキャップナット[26]を緩めます。
- 2) キャップナット[26]とボディキャップ[25]を外します。
- 3) キャップナット[26]をパイプ側へ通します。
- 4) ボディキャップ[25]の受口部をウエスできれいに拭き取ります。
- 5) ボディキャップ受口部及びパイプ差口に接着剤を均一に塗布します。

 注意	
 強制	破損する、または漏れるおそれがあります。 ▶ 接着剤の塗り過ぎに注意してください。(バルブ内に接着剤が流れ込むと作動不良または内部漏れの原因となるおそれがあります。また、ソルベントクラックが発生し破損するおそれがあります)

接着剤使用量(目安)

呼び径(mm)	15	20	25	32	40	50
使用量(g)	1.0	1.3	2.0	2.4	3.5	4.8

- 6) 接着剤塗布後すばやくパイプをボディキャップ[25]へ差し込み、そのまま 60 秒以上保持します。

 注意	
 禁止	破損するおそれがあります。 ▶ 管が破損するおそれがあるため、叩き込みによる挿入は絶対にしないでください。

- 7) はみ出した接着剤を拭き取ります。
- 8) O リング(C)[27]が正しく装着されているかを確認します。
- 9) ボディ側にボディキャップ[25]及びキャップナット[26]を O リング(C)[27]が外れない様に接触させます。
- 10) キャップナット[26]を手できつくなるまで締め付けます。
- 11) キャップナット[26]を傷付けないようにベルトレンチで 1/4 ～1/2 回転ねじ込みます。

ソケット形、スピゴット形（溶着）

 警告	
 禁止	重傷を負うおそれがあります。 ▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。

 注意	
 禁止	バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ キャップナットを締め過ぎないでください。 ▶ キャップナットを締める際にパイプレンチを使用しないでください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。 ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。 バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ この製品のキャップナットは、ゆるめやすいように軽く締め付けられています。必ずボディキャップを取り外してから施工してください。 ▶ 配管やバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。 ▶ 配管施工時、または分解組立の際は、ボディキャップを固定させて作業を行ってください。 ▶ バルブを管末に取り付ける際は、二次側（下流側）のキャップナットとボディキャップは、必ず装着しておいてください。

準備するもの	▶ ベルトレンチ	▶ 溶着機	▶ 溶着機取扱説明書
--------	----------	-------	------------

[手順]

- 1) ベルトレンチでキャップナット[26]を緩めます。
- 2) キャップナット[26]とボディキャップ[25]を外します。
- 3) キャップナット[26]をパイプ側へ通します。
- 4) ここからは、溶着機取扱説明書を参照ください。
- 5) 溶着完了後、O リング(C)[27]が装着されているのを確認します。
- 6) ボディ側にボディキャップ[25]及びキャップナット[26]を O リング(C)[27]が外れないように接触させます。
- 7) キャップナット[26]を手できつくなるまで締め付けます。
- 8) キャップナット[26]を傷付けないようにベルトレンチで 1/4 ～1/2 回転ねじ込みます。

製品の支持

エンザート及び架台（パネル）と配管方法

 注意 **禁止**

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ Uバンドなどで配管をサポートする際は、締め過ぎないでください。
- ▶ ポンプ周りの配管にバルブを取り付けるときは、バルブに大きな振動を起こさせないでください。

 強制

ケガをするおそれがあります。

- ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。
- ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ Uバンドなどで配管をサポートする際は、締め過ぎないでください。
- ▶ 取付けの際は、配管やバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。
- ▶ この製品のキャップナットは、ゆるめやすいように軽く締め付けられています。必ずボディキャップを取り外してから施工してください。
- ▶ 配管施工時、または分解組立の際は、ボディキャップを固定させて作業を行ってください。
- ▶ 配管ラインの管末に取り付ける場合、二次側（下流側）のキャップナットとボディキャップは必ず装着しておいてください。
- ▶ 金属配管へ樹脂バルブを接続する際は、樹脂バルブに配管応力が加わらないようにしてください。
- ▶ 接合部のねじが樹脂製であることを確認してください。
- ▶ 弊社の樹脂製配管材料のねじ接合部には、シールテープを使用してください。
- ▶ エンザートをねじ込むときは、垂直に取り付けてください。
- ▶ エンザート取付専用工具の詳細取扱いは、別途エンザートメーカーの取扱説明書を参照してください。

準備するもの	▶ スパナ	▶ ゴムシート	▶ Uバンド(ボルト付)
	▶ ボルト・ナット・ワッシャ	▶ エンザート	▶ エンザート取付専用工具

▶ ボトムスタンドにエンザートを取り付ける

[手順]

- 1) エンザートの取扱説明書を参照してボトムスタンドにエンザートをねじ込みます。

表 5-4 ボトムスタンドとエンザートの寸法

呼び径	ボトムスタンド			エンザート		
	S	S1	S2	ねじの呼び	長さ	材質
15mm	25	7	12	M5	10	ステンレス または 真ちゅう
20mm	25	7	12	M5	10	
25mm	25	7	12	M5	10	
32mm	25	7	12	M5	10	
40mm	45	9	15	M6	14	
50mm	45	9	15	M6	14	

図 5-2 ボトムスタンド形状

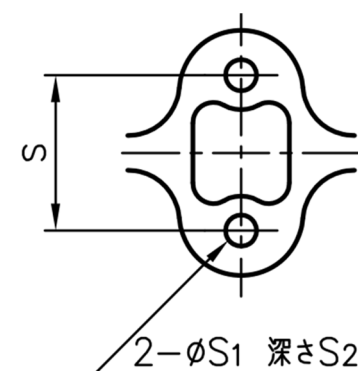
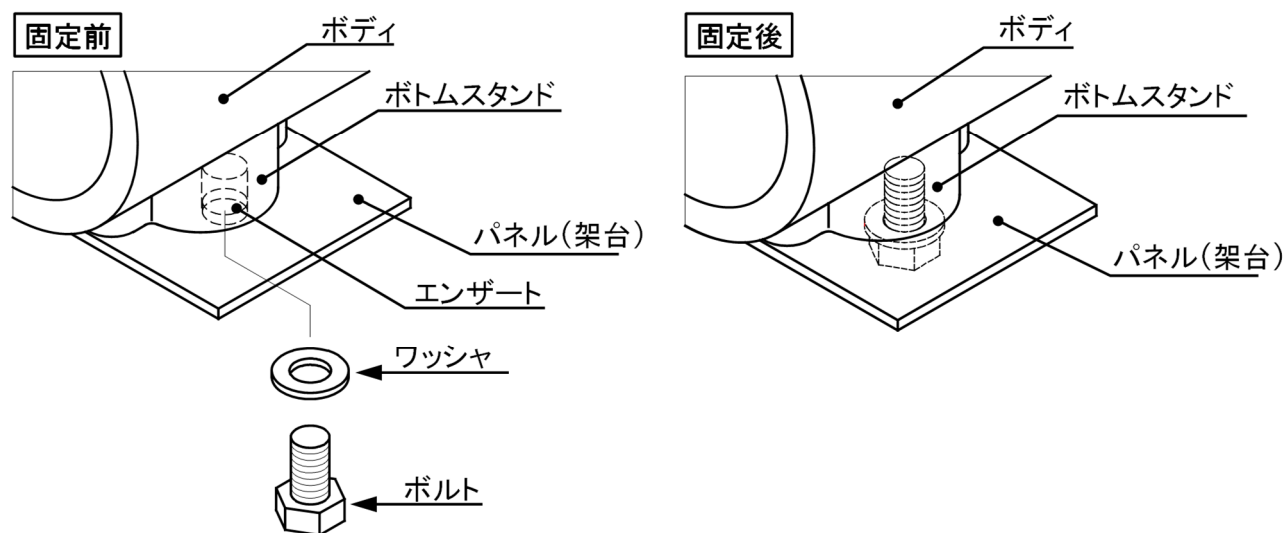


図 5-3 ボトムスタンド固定例



 注意	
 禁止	バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ Uバンドなどで配管をサポートする際は、締め過ぎないでください。 ▶ ポンプ周りの配管にバルブを取り付けるときは、バルブに大きな振動を起こさせないでください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。 ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。 バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。 ▶ Uバンドなどで配管をサポートする際は、締め過ぎないでください。 ▶ 取付けの際は、配管やバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。 ▶ 配管ラインの管末に取り付ける場合、二次側（下流側）のキャップナットとボディキャップは必ず装着しておいてください。 ▶ 金属配管へ樹脂バルブを接続する際は、樹脂バルブに配管応力が加わらないようにしてください。

準備するもの ▶ スパナ ▶ Uバンド(ボルト付) ▶ ゴムシート

水平配管

○エンザートを使用し、サポートを設置する場合

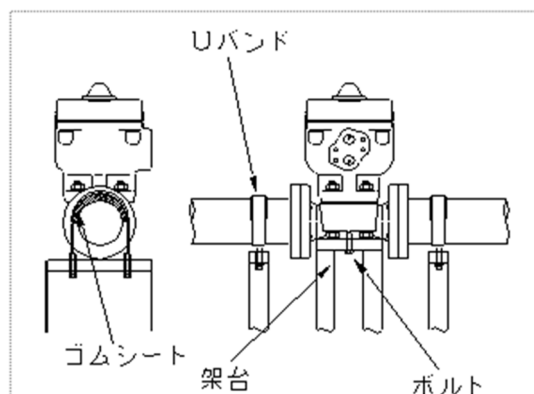
バルブの下部に設けているエンザート部と架台をボルトで固定します。

パイプ部は上部にゴムシートを敷き、Uバンドで固定します。

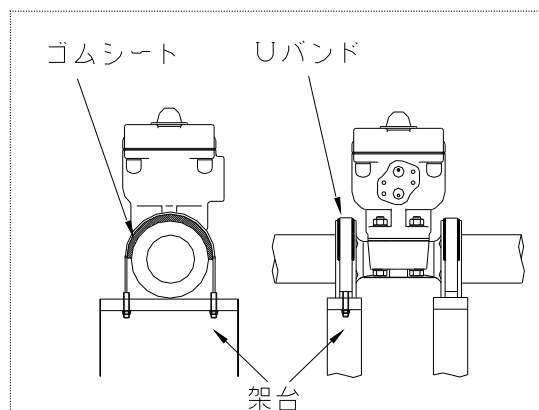
ボルトのサイズ

呼び径	15～32 mm	40, 50 mm
呼び	M5	M6

(サポート設置例)



(サポート設置例)



○エンザートを使用せず、サポートを設置する場合
(ボディキャップがフランジ形のもの)

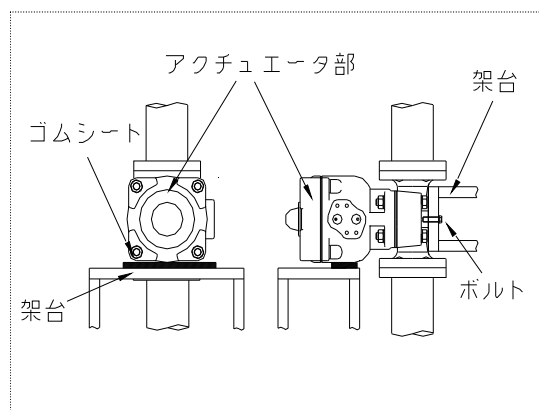
バルブのフランジ部にゴムシートを敷き、Uバンドで固定します。

垂直配管

バルブの下部に設けているエンザート部と架台をボルトで固定します。

アクチュエータ部にゴムシートを敷き、架台で支持します。

(サポート設置例)



6. エア配管方法

オプションなし、またはスピードコントローラ付の場合

 警告	
 禁止	ケガをするおそれがあります。 ▶ エア配管を接続する直前まで、保護プラグは取り外さないでください。

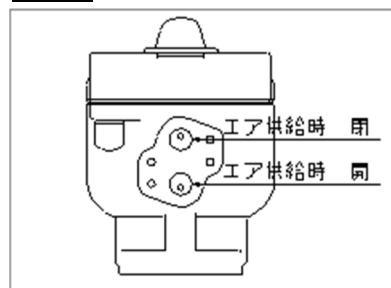
 注意	
 禁止	破損するおそれがあります。 ▶ エア配管用継手は締め過ぎないでください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。 破損する、または誤動作を起こすおそれがあります。 ▶ 当該製品の承認納入図などから接続場所、エア配管サイズ、ねじの種類を確認しエア配管してください。 ▶ 供給空気は除湿、除塵された清浄なものを使用してください。ただし露点が-40℃以下の高乾燥エアをご使用の場合は別途ご相談ください。 ▶ 周囲温度が 5℃以下でご使用の場合は、操作エアの水分を除去し、凍結を防止してください。 ▶ エア配管に銅管を使用する場合には、管内面を防錆処理したものを使用してください。 ▶ エア配管を接続する前にエア配管内部を十分にフラッシングしてください。 ▶ エア配管を接続するときは、シール材などの異物が配管内に入り込まないように注意してください。 ▶ 配管用継手/ねじ部のバリは必ず除去してください。（ガジリやエア漏れを生じたりします）

準備するもの	▶ エア配管用銅管またはチューブ管	▶ スパナ
	▶ 銅管用継手またはチューブ管用継手	▶ シールテープ

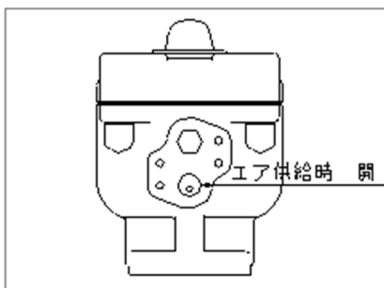
[手順]

- 1) 継手のおねじにシールテープを先端 3mm 残して巻き付けます。
- 2) アクチュエータの配管口に継手を手で締め付けます。
- 3) 継手をスパナで 1 回転ねじ込みます。
- 4) エア式配管用銅管またはチューブ管を取付けます。

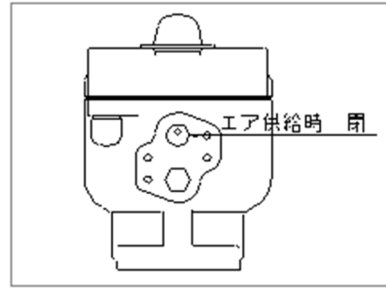
復 動



逆作動



正作動



※ スピードコントローラ付きの場合も配管要領は同じです。

電磁弁及びフィルタ付減圧弁付の場合

 警告	
 禁止	ケガをするおそれがあります。 ▶ エア配管を接続する直前まで、保護プラグは取り外さないでください。

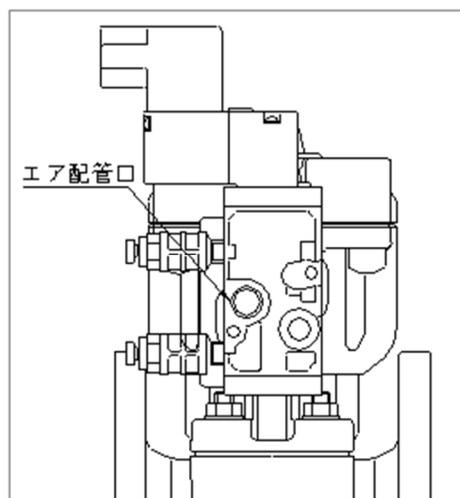
 注意	
 禁止	破損するおそれがあります。 ▶ エア配管用継手は締め過ぎないでください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。 破損する、または誤動作を起こすおそれがあります。 ▶ エア配管に銅管を使用する場合には、管内面を防錆処理したものを使用してください。 ▶ エア配管を接続する前にエア配管内部を十分にフラッシングしてください。 ▶ エア配管を接続するときは、シール材などの異物が配管内に入り込まないように注意してください。 ▶ 配管用継手/ねじ部のバリは必ず除去してください。 (ガジリやエア漏れを生じたりします) ▶ エア配管用継手は、締め過ぎないでください。 ▶ 電磁弁の調整ツマミは、調整後、必ずロックしてください。 ▶ フィルタ付き減圧弁のドレンは、定期的に排出してください。 ▶ フィルタ付き減圧弁の2次側圧力は、機器仕様に合った設定にしてください。 (作動不良や、故障の原因になります)

準備するもの	▶ エア配管用銅管またはチューブ管	▶ スパナ
	▶ 銅管用継手またはチューブ管用継手	▶ シールテープ

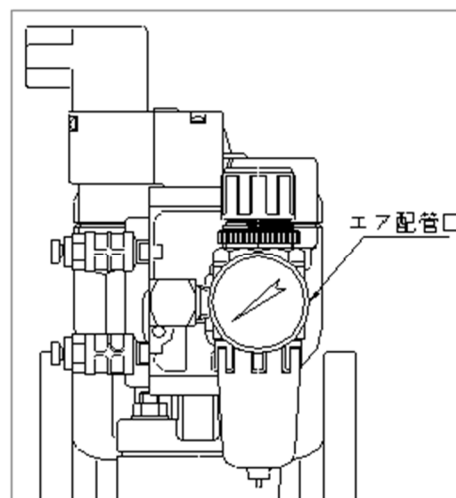
[手順]

- 1) 継手のおねじにシールテープを先端 3mm 残して巻き付けます。
- 2) エア配管口(図 1・図 2 参照)に継手を手で締め付けます。
- 3) 継手をスパナで 1 回転ねじ込みます。
- 4) エア配管用銅管またはチューブ管を取付けます。

(図 1)電磁弁付



(図 2)電磁弁・フィルタ付減圧弁付



7. 結線方法

リミットスイッチ

 警告	
 禁止	感電するおそれがあります。 ▶ 通電状態で配線作業を行わないでください。

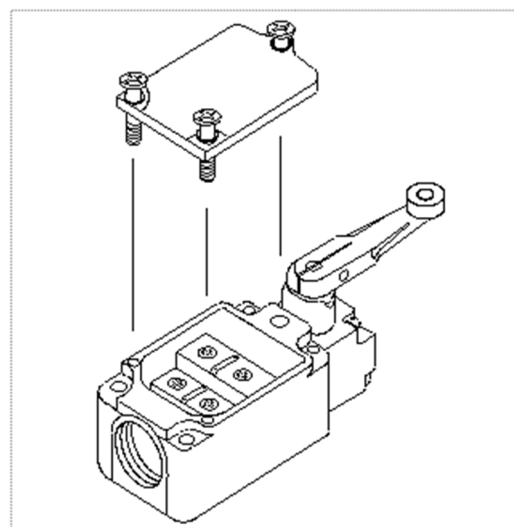
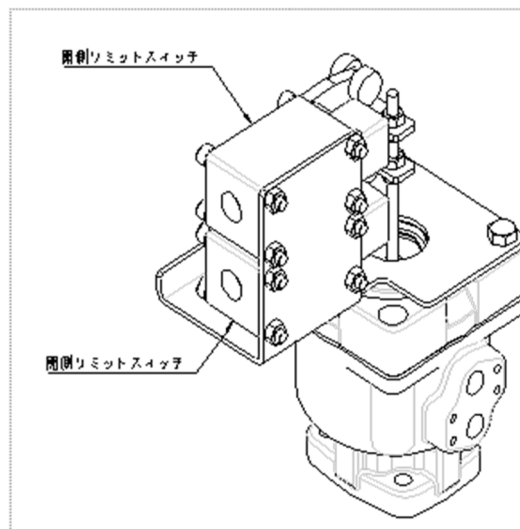
 注意	
 禁止	機械が故障する、または誤動作を起こすおそれがあります。 ▶ 屋外などの雨水や水分が浸入する可能性がある場所に設置する場合は、配線口から雨水などが侵入しないようにしてください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。 ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。 機械が故障する、または誤動作を起こすおそれがあります。 ▶ 電線は絶縁被覆付き圧着端子を用いて、カバー、ハウジングに接触しないように結線してください。（カバーに圧着端子が接触すると、カバーが閉まらなくなり地絡することがあります。） ▶ リミットスイッチを 1mA～100mA、5V～30V で使用される場合は、弊社へご相談ください。

<リミットスイッチ型式(1LS19-J)の場合>

準備するもの	▶ プラスドライバー	▶ コネクタ (G1/2)	▶ 圧縮端子
	▶ ワイヤストリッパー	▶ 端子圧着工具	▶ 圧電工ナイフ

[手順]

- 1) リミットスイッチカバーを固定しているねじ(3 か所)をプラスドライバーで緩め、カバーを外します。(ねじはカバーから抜け落ちない構造になっています)
- 2) 樹脂製保護キャップを引っ張って外します。
- 3) コネクタにケーブルを通します。
- 4) ワイヤストリッパーでケーブル先端の被覆を剥ぎます。
- 5) 端子圧着工具でリード線に圧着端子を付けます。
- 6) 端子ねじにプラスドライバーでリミットスイッチ仕様（オプション）の内部回路図にしたがって結線します。
- 7) リミットスイッチカバーを固定しているねじ(3 か所)をプラスドライバーで締め付け、カバーを取り付けます。
- 8) コネクタでケーブルを締め付けます。

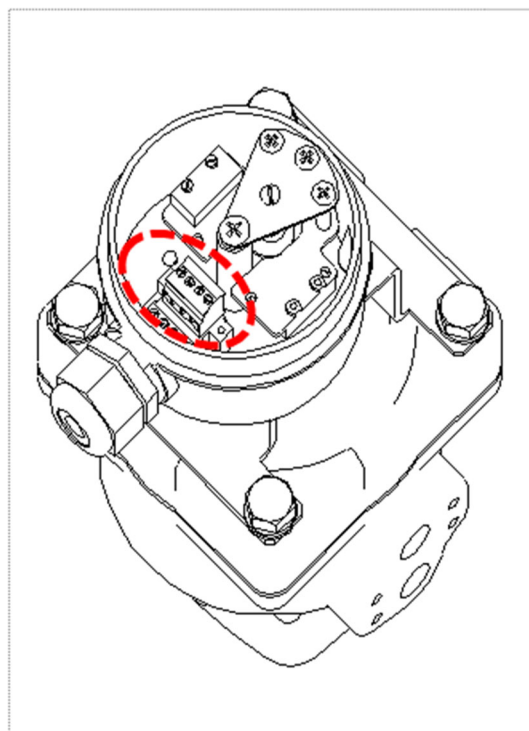


<リミットスイッチボックスの場合>

準備するもの	▶ マイナスドライバー(精密)	▶ ワイヤストリッパー(ニッパーなどでも代用可能)
	▶ 電工ナイフ	

[手順]

- 1) リミットスイッチボックスのカバーを手で回して外します。
- 2) 配線口のコネクタキャップを外します。
- 3) 先程取り外したコネクタキャップを通してから、配線口よりスイッチボックス内にケーブルを引き込みます。
- 4) ワイヤストリッパーでケーブル先端の被覆を剥ぎます。
- 5) 端子台にケーブルの先端を差し込み、マイナスドライバーで固定します。
 なお、端子台の1番と2番が閉側検出用、3番と4番が開側検出用です。(右図の破線丸部分)
- 6) コネクタを締め込みます。
 この時、ケーブルの外皮がしっかりと固定されていることを確認してください。
- 7) カバーを元通りに取り付けます。



電磁弁

 警告	
 禁止	感電するおそれがあります。 ▶ 電磁弁への結線・離線は、通電状態で行わないでください。 ▶ 濡れた手や工具で作業を行わないでください。

 注意	
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。 ▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。 機械が誤動作を起こすおそれがあります。 ▶ 電磁弁の調節ツマミは、調整後、必ずロックしてください。

準備するもの	▶ プラスドライバー	▶ 端子圧着工具	▶ コネクタ (G1/2)
	▶ ワイヤストリッパー	▶ 電工ナイフ	

前準備として、電磁弁内に引き込むケーブルの先端の外皮を、電工ナイフを用いて 5cm ほど剥ぎ取っておいてください。

[手順]

- 1) カバー止めねじをプラスドライバーで緩めてカバーを取り外します。

※O リングは紛失しないください。
(漏電や感電のおそれがあります)

- 2) コイル側端子に差し込んであるファストン端子と絶縁カバーを抜き取ります。

※アース用端子には絶縁スリーブを付属していません。

- 3) コネクタ、カバーの順にケーブルを通します。

- 4) ワイヤストリッパーでケーブルの外皮をむきます。

- 5) 絶縁カバーにリード線を通します。

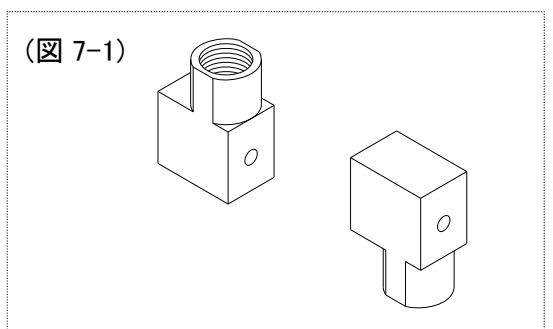
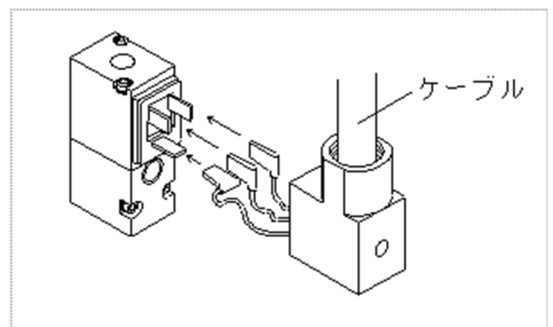
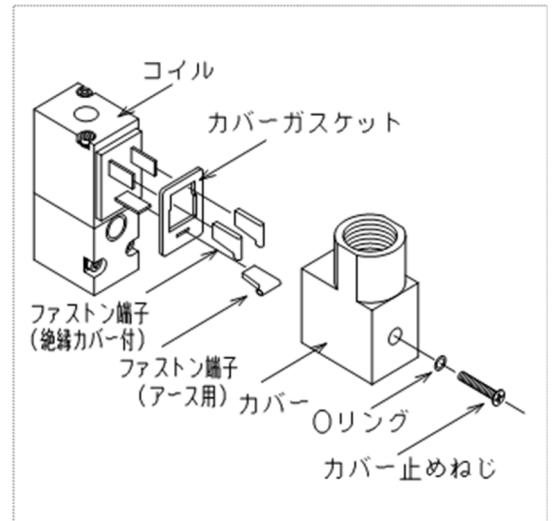
- 6) 端子圧着工具でリード線にファストン端子を付けます。

- 7) コイル側端子にファストン端子を差し込み、絶縁カバーをかぶせます。

- 8) カバー止めねじでカバーを取り付けます。

〔カバーは配線引出口を上下どちらにしても取付けられます。(図 7-1)〕

- 9) コネクタでケーブルを締め付けます。



8. 試運転方法

エアによる操作方法

警告**強制**

重傷を負うおそれがあります。

- ▶ アクチュエータの上部出力軸に、手動操作用のスパナが嵌合していないことを確認してください。

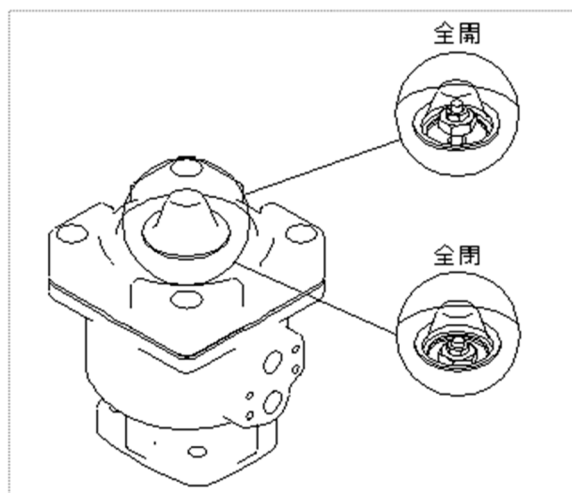
注意**禁止**

バルブが破損する、損傷する、または作動しないおそれがあります。

- ▶ 表示された製品仕様内で使用してください。

[手順]

- 1) エア供給口にエアを供給します。
- 2) エアの供給/遮断とストッパー[51]位置が一致していることを確認します。
- 3) エア供給を停止します。

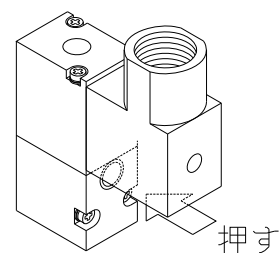


〈電磁弁付の場合〉

[手順]

- 1) 電磁弁にエアを供給します。
- 2) 電磁弁端子カバーの横の押しボタンを指で押すことにより、下表の作動になることを確認します。(図 8-1 参照)
- 3) 電磁弁への通電・非通電により、下表の作動になることを確認します。
- 4) 電磁弁の電源を切ります。

(図 8-1)



押しボタン	電源	復動・逆作動	正作動
押す	通 電	バルブ全開	バルブ全閉
押さない	非通電	バルブ全閉	バルブ全開

開閉スピード調整方法 <復動>

注意


電磁弁が破損、または誤動作を起こすおそれがあります。

- ▶ 電磁弁の調節ツマミは、調整後、必ずロックしてください。
(ロックナットは無理な力で締めないでください。)

準備するもの ▶ スパナ

[手順]

- 1) 開閉両方のスピードコントローラの調整ツマミを回らなくなるまで右回転させます。
※無理に回し過ぎないでください。
(破損するおそれがあります)

- 2) 電磁弁にエアを供給します。

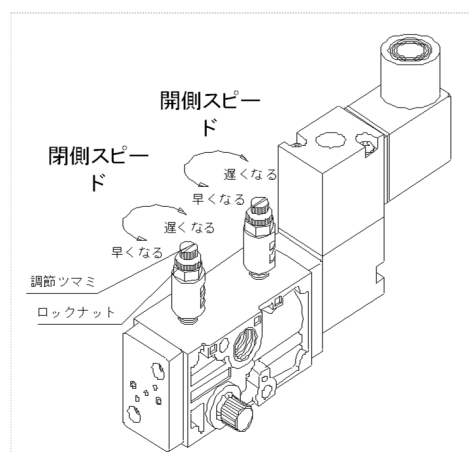
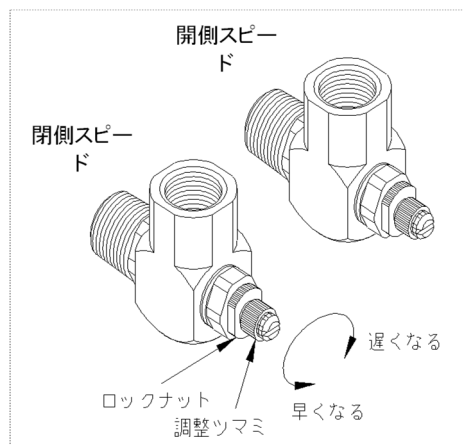
- 3) 電磁弁側に通電し、開側スピードコントローラの調整ツマミを少しずつ左回転させます。

- 4) 電磁弁側の通電を切り、閉側スピードコントローラの調整ツマミを少しずつ左回転させます。

- 5) 3)、4)を繰り返して希望する開閉スピードに合わせます。

- 6) 希望するスピードになったら調整ツマミを指で保持したままスパナでロックナットを右回転させ、調整ツマミを固定します。

※ロックナットは無理な力で締めないでください。(破損するおそれがあります)

電磁弁付の場合

スピードコントローラ付の場合


開閉スピード調整方法 <単動（逆作動・正作動）>

 注意	
 禁止	電磁弁が破損、または誤動作を起こすおそれがあります。 ▶ 電磁弁の調節ツマミは、調整後、必ずロックしてください。 （ロックナットは無理な力で締めないでください。）

： 準備するもの ： ▶ スパナ

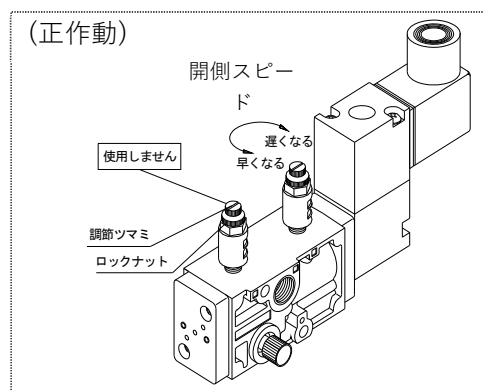
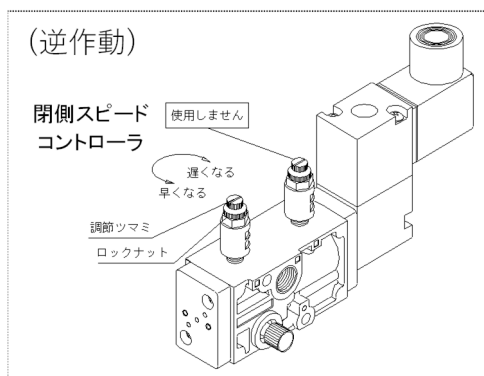
作動型式によりスピード調整出来る方向が異なります。

作動型式	開になるスピード	閉になるスピード
逆作動	調整できません	調整できます
正作動	調整できます	調整できません

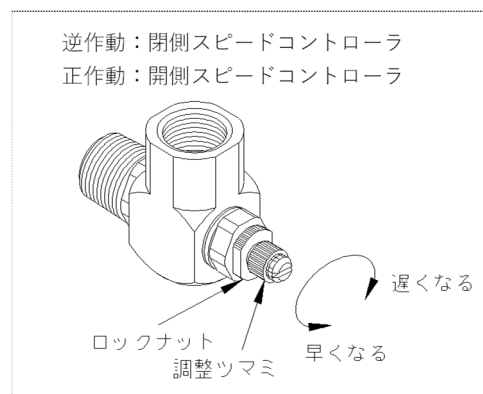
[手順]

- 1) スピードコントローラの調整ツマミを回らなくなるまで右回転させます。
※無理に回し過ぎないでください。
(破損するおそれがあります)
- 2) 電磁弁エアを供給します。
- 3) 電磁弁に通電した後、通電を切り、スピードコントローラの調整ツマミを、少しずつ左回転させ、希望する開閉スピードに合わせます。
- 4) 希望するスピードになったら調整ツマミを指で保持したままスパナでロックナットを右回転させ、調整ツマミを固定します。
※ロックナットは無理な力で締めないでください。
(破損するおそれがあります)

電磁弁付の場合



スピードコントローラ付の場合



9. ストッパーの調整・操作方法

 警告

重傷を負うおそれがあります。

- ▶ アクチュエータをエアで操作する場合は、駆動部には絶対に手を触れないでください。

 注意

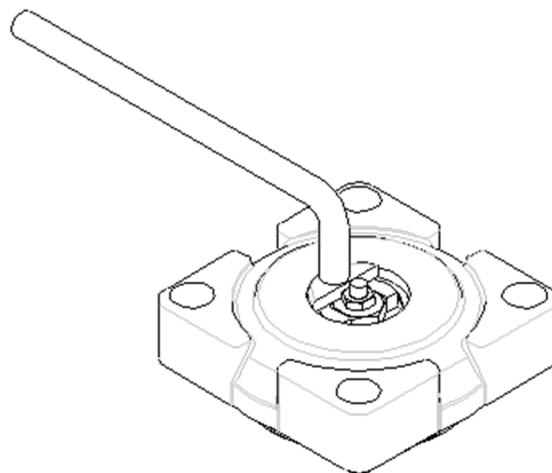
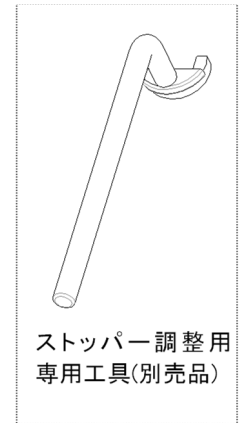
バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ バルブ操作を全閉にした際に、ストッパーに緩みが生じている場合や内部漏れが生じている場合は、ストッパーが機能していない可能性がありますのでストッパーの調整を行ってください。
- ▶ ストッパー類は確実に締め付けてください。
(ストッパー類の締め付けトルクが弱いとストッパー類が緩むおそれがあります。)

準備するもの	▶ ストッパー調整用専用工具(別売品)	▶ スパナ (10mm、17mm)
	▶ マイナスドライバ	▶ プラスドライバ

[手順]**(標準仕様の場合)**

- 1) マイナスドライバでゲージカバー[11]を取り外します。
(O リング[14]を傷付けないでください。)
- 2) バルブをエア操作で全開の状態にします。
- 3) ストッパー[51]を専用工具(右図参照)またはスパナで固定した状態で、ナット[52]をスパナで緩めます。
- 4) ストッパー[51]及びナット[52]を表示ロッド[31]より取り外します。
- 5) バルブをエア操作で全閉の状態にします。
- 6) ストッパー[51]を表示ロッド[31]に取り付け、手で回らなくなるまで締め込みます。
- 7) ストッパー[51]を専用工具で流体が微小に漏れ始めるところまで時計方向に回転させます。
- 8) ストッパー[51]を専用工具で手順 7 の位置より反時計方向に 1/4～1/2 回転させます。
(表示ロッド[31]が共回りする可能性がありますので、バルブをエア操作で全開にした状態で作業されることをお勧めします)
- 9) ストッパー[51]を専用工具で固定し、ナット[52]をスパナでしっかり締め付けます。
- 10) バルブをエア操作で全開⇄全閉の状態を繰り返し、流体の漏れが無いか確認します。
(流体の漏れがある場合は、手順 2、3 の後でストッパー[51]を反時計方向に 1/4 回転させて手順 9 に戻り、漏れが無くなるまで繰り返してください)
- 11) ゲージカバー[11]を取り付けます。



< 現地での調整方法 >

現地でストッパー調整を行う場合、手順 7 の微小に漏れ始める位置を確認し難いことがあります。
その際は、以下の方法で調整を行ってください。(手順 5～10 の方法になります)

- 5) バルブをエア操作で全閉の状態にします。
- 6) ストッパー[51]を表示ロッド[31]に取り付け、手で回らなくなるまで締め込みます。
(この際、ストッパー[51]に回転の目印となる標線を引くことをお勧めします。)
- 7) バルブをエア操作で全開の状態にします。
- 8) 下表を目安に、ストッパー[51]を手順 6 の位置より時計方向に回転させます。

ストッパー回転数 (目安)

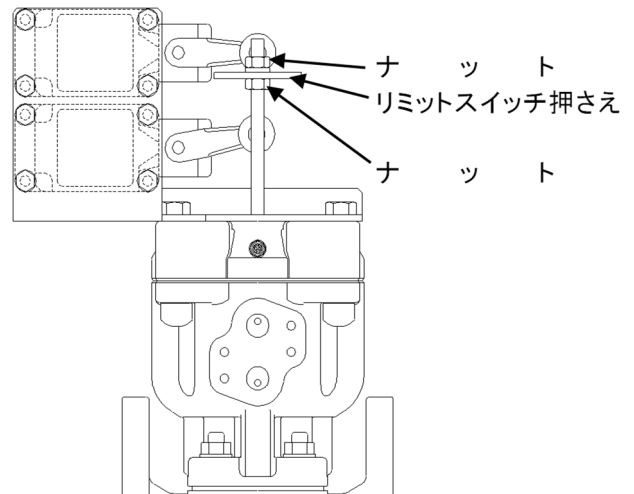
呼び径 (mm)	回転数（回転）								
	作動	復動※		逆作動				正作動※	
				0.7MPa 仕様		1.0MPa 仕様			
	ダイヤフラム	EPDM	PTFE	EPDM	PTFE	EPDM	PTFE	EPDM	PTFE
15		1 1/2	3/4	1/2	1/4	1/2	1/2	1/2	1/2
20		1 1/4	1/2	3/4	0	1/2	1/4	3/4	0
25		1 1/2	1/4	1	0	3/4	0	3/4	0
32		1 1/2	1/4	1	0	3/4	0	3/4	0
40		2 1/2	1 1/4	1 1/2	3/4	1	1/2	1 1/2	1
50		1 3/4	3/4	2	1/4	2	0	1 1/2	1/2

※復動及び正作動のエア操作圧は 0.4MPa に設定してください。

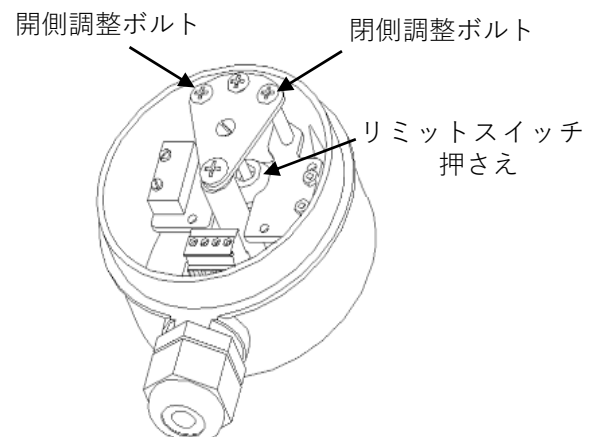
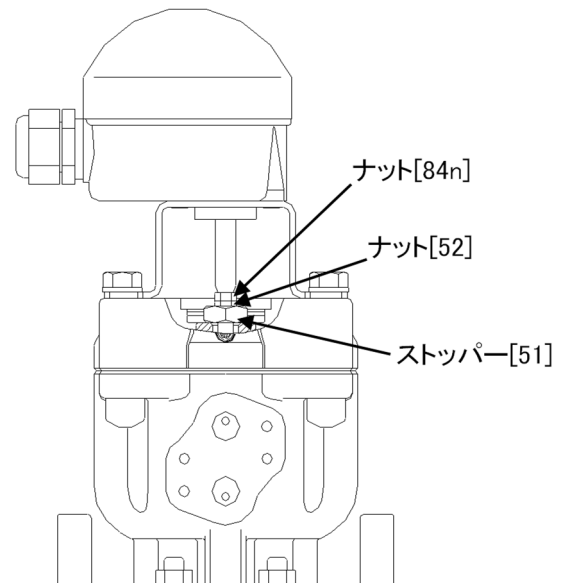
- 9) ストッパー[51]をスパナで固定し、ナット[52]をスパナでしっかり締め付けます。
- 10) バルブをエア操作で全開⇄全閉の状態を繰り返し、流体の漏れが無いことを確認します。
(流体の漏れがある場合は、手順 2、3 の後でストッパー[51]を反時計方向に 1/4 回転させて手順 9
に戻り、漏れが無くなるまで繰り返してください)

[手順]
(リミットスイッチ付の場合)

- 1) バルブをエア操作で全開の状態にします。
- 2) ストッパー[51]を専用工具またはスパナで固定した状態で、ナット[52]をスパナで緩めます。
- 3) ストッパー[51]を緩めます。
- 4) 標準仕様の<ストッパーの調整方法>の手順 5～10 を行います。
- 5) ナット(No.70)[70n]の下側をスパナで固定し、ナット(No.70)[70n]の上側をスパナで緩めます。
- 6) リミットスイッチ押さえ[68]の上下位置を調整します。
- 7) ナット(No.70)[70n]の下側をスパナで固定し、ナット(No.70)[70n]の上側をスパナで締め付けます。
- 8) バルブをエア操作で全開⇄全閉を繰り返し、リミットスイッチが正常に作動するか確認します。
※リミットスイッチが正常に作動しない場合は、手順 5 に戻り再度調整を行います。


[手順]
(リミットスイッチボックス付の場合)

- 1) バルブをエア操作で全開の状態にします。
- 2) ナット[52]をスパナで固定した状態で、ナット[84n]をスパナで緩めます。
- 3) ストッパー[51]を専用工具またはスパナで固定した状態で、ナット[52]をスパナで緩めます。
- 4) ストッパー[51]を緩めます。
- 5) 標準仕様の<ストッパーの調整方法>の手順 5～10 を行います。
- 6) ナット[52]をスパナで固定した状態でナット[84n]をスパナで締め付けます。
- 7) リミットスイッチボックスのカバーを反時計方向に回転させて取り外します。
※O-リングを無くさないように注意してください。
- 8) 開側及び閉側調整ボルトを回転させて開側及び閉側リミットスイッチの位置を調整します。
※閉側リミットスイッチは下げ過ぎるとスイッチが土台に接触し、常に閉側リミットスイッチが作動した状態になりますので、注意してください。
- 9) バルブをエア操作で全開⇄全閉を繰り返し、リミットスイッチボックスが正常に作動するか確認します。
※リミットスイッチボックスが正常に作動しない場合は手順 8 に戻り再度調整を行います。
- 10) リミットスイッチボックスのカバーを時計方向に回転させて取り付けます。

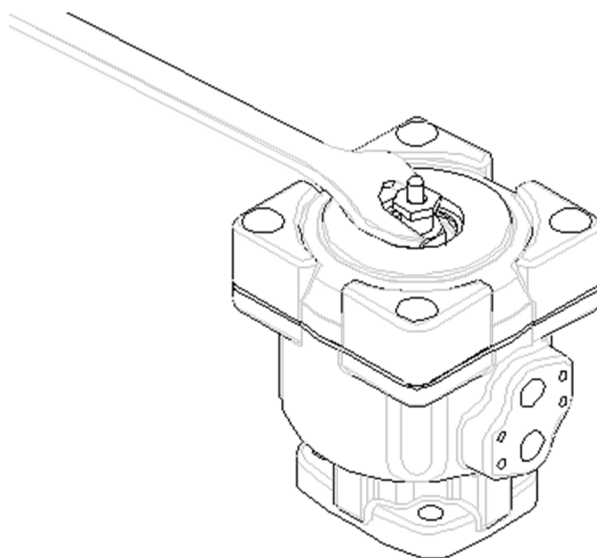


＜全開度調整方法＞

準備するもの	▶ スパナ(やり形) ▶ マイナスドライバー ▶ ストッパー調整用専用工具(別売品：推奨)
--------	---

[手順]

- アダプタ[83]をマイナスドライバーを用いて取り外します。
※O-リング[14]を傷付けないでください。
- バルブをエア操作で全開の状態にします。
- ストッパー[51]をスパナで固定し、ナット[52]をスパナで緩めます。
- ストッパー[51]を反時計回りに回転させ、取り外します。
- 開度調整台[57]をスパナで固定し、ナット[58]をスパナで緩めます。
- 開度調整台[57]をスパナで今回調整しようとする開度になるまでアクチュエータにねじ込みます。
- 手順 6 で調整した開度調整台[57]をスパナで固定し、ナット[58]をスパナで締め付けます。
- 標準仕様の＜ストッパー調整方法＞の手順 5～10 を参照してストッパーの調整を行います。
※＜ストッパーの調整方法＞に記載された表示ロッド[31]は開度調整機構用表示ロッド[32]となります。
- アダプタ[83]を取り付けます。



10. 部品交換のための分解/組立方法

バルブ全閉時に内部漏れ(シート漏れ)、または外部漏れが生じた場合、部品を交換することで漏れが改善することがあります。

部品を交換しても漏れが改善しないときは、本項目にしたがってバルブを取り外し、交換してください。

 警告	
 禁止	ケガをするおそれがあります。 ▶ アクチュエータは分解しないでください。 ▶ アクチュエータをエアで操作する場合は、駆動部には絶対に手を触れないでください。
 強制	ケガをするおそれがあります。 ▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。 ▶ 配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。

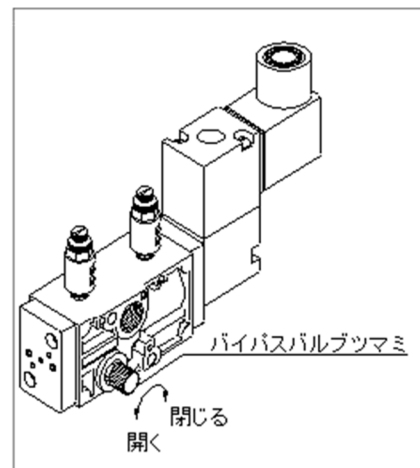
 注意	
 禁止	破損するおそれがあります。 ▶ バルブの取替えや部品交換の際には、配管内の流体を完全に抜いて、流体の圧力をゼロにしてください。 ▶ キャップナットは締め過ぎないでください。 ▶ キャップナットを締める際は、パイプレンチを使用しないでください。
 強制	破損するおそれがあります。 ▶ 配管施工時または分解組立の際は、ボディキャップを固定させて作業を行ってください。 ▶ 通水試験前は、必ずキャップナットが十分に締まっていることを確認してください。 ▶ 軸芯ズレや面間寸法に注意してキャップナットを締め付けてください。 ▶ 金属配管へ樹脂バルブを接続する際は、樹脂バルブに配管応力が加わらないように注意してください。

準備するもの ▶ スパナ ▶ 保護手袋 ▶ 保護眼鏡

〈分解〉

[手順]

- 1) 配管内の流体を完全に抜きます。
- 2) エア元バルブを閉め、電磁弁付の場合はバイパスバルブを開けてアクチュエータ内のエアを排気します。
- 3) エア配管を外します。
(逆作動の場合はエア配管を外さないでください)
- 4) ボディとアクチュエータ間のボルト(B)[40]を完全に緩めます。(逆作動は、アクチュエータにエアを入れて分解すると、スムーズに作業できます)
- 5) アクチュエータ[28]、[29]、[30]を取り外します。
- 6) ダイヤフラム[3]を 90° 回転させて取り外します。
- 7) コンプレッサー[6]を取り外します。
- 8) ジョイント金具[7]を取り外します。
- 9) コンプレッサー押さえ[33]を取り外します。



〈組立〉

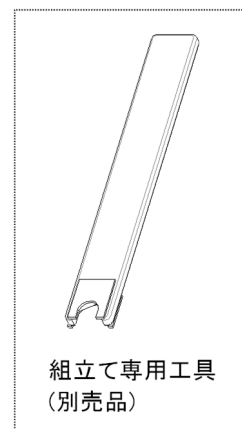
[手順]

- 9) から逆の手順で行います。(ボディ締付トルクは表 10-1 参照)
※呼び径 15 mm の場合は、組立て時の専用工具があります。
御必要の場合は、お手数ですが弊社へ別途お問合せください。

(表 10-1) ボディ締付トルク値

単位：N・m {kgf・cm}

呼び径	15 mm	20 - 32 mm	40 mm	50 mm
ダイヤフラム				
ラバー	3.0 {31}	5.0 {51}	12.0 {122}	15.0 {153}
PTFE	5.0 {51}	8.0 {82}	15.0 {153}	20.0 {204}



11. 点検項目

 注意 **強制**

バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ 正常な状態を保ち、末永くお使いいただくため、3 か月～6 か月ごとを目安にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化に注意してください。
- ▶ バルブまたは部品を交換する際にバルブを配管から取り外すときは、配管内の流体を完全に抜いてから作業を行ってください。
- ▶ 不具合現象が確認されたときは『12. 不具合の原因と処置方法』を参照して処置してください。

日常点検

点検項目と 点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
外部漏れ (目視)	漏れが 無いこと	【フランジ形】 配管フランジ接続部	① 配管ボルトを規定トルクで増し締めする ② バルブを配管から取り外して配管ボルト の締め付けをやり直す (参照：5.配管方法[フランジ形])
		【ソケット形】 接着施工部	バルブを配管から取り外して接着施工をや り直す (参照：5.配管方法[ソケット形])
		【ねじ込み形】 ねじ込み接続部	バルブを配管から取り外してねじ込み施工 をやり直す (参照：5.配管方法[ねじ込み形])
		バルブのキャップナット部	① キャップナットを増し締めする ② バルブを配管から取り外して O リングや シール面を確認し、不具合部品を交換する (参照：5.配管方法)
		バルブ全体の表面	バルブを配管から取り外してバルブを交換 する (参照：10.部品交換のための分解方法)
内部漏れ (目視およ び計測)	漏れが 無いこと	バルブ全閉時の二次側への漏 れ	バルブを配管から取り外してバルブまたは 不具合部品を交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
		流量計、圧力計等の測定値	バルブを配管から取り外してバルブまたは 不具合部品を交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)

日常点検（続き）

点検項目と 点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
異音 (聴音)	異音の 無いこと	バルブ及びアクチュエータ	バルブを配管から取り外してバルブまたは アクチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
		バルブ周辺の配管	使用条件を再確認する (参照：2.安全上のご注意)

定期点検

●点検周期の目安：3 か月

点検項目と 点検方法	判断の目安	点検箇所	不具合時の処置方法
振動 (触診)	他所との差が 無いこと	バルブ及びアクチュエータ	使用条件を再確認し、振動源を除去する (参照：2.安全上のご注意)
			バルブを配管から取り外してバルブまたはア クチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
		バルブ周辺の配管	使用条件を再確認し、振動源を除去する (参照：2.安全上のご注意)

定期点検

●点検周期の目安：6 か月

点検項目と 点検方法	判断の目安	点検箇所	不具合時の処置方法
手動ハンドルの 操作性（感触）	スムーズに 回ること	手動操作部	バルブを配管から取り外してバルブまたはア クチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
ボルト類の ゆるみ (目視、触診)	ゆるみの 無いこと	ボディ + アクチュエー タ用	取付ボルトを規定トルクで増し締めする (参照：10.部品交換のための分解方法)
		【フランジ形】 フランジ配管用	配管ボルトを規定トルクで増し締めする (参照：5.配管方法[フランジ形])
水の侵入※1 (目視)	侵入の 無いこと	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
異物の侵入※1 (目視)	侵入の 無いこと	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
腐食 または錆び (目視)	腐食または 錆びの 無いこと	製品の外観及びアクチュ エータ内	バルブを配管から取り外してバルブまたはア クチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
製品損傷	傷、割れ、変 形の無いこと	製品の外観	バルブを配管から取り外してバルブまたはア クチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)

12. 不具合の原因と処置方法

 注意 **強制**

感電する、またはケガをするおそれがあります。

- ▶ 不具合現象が確認されたときは速やかに使用を中止し、処置を行ってください。
- ▶ バルブまたは部品を交換する際にバルブを配管から取り外すときは、配管内の流体を完全に抜いてから作業を行ってください。
- ▶ アクチュエータカバーを取り外すときは、電源を切ってください。

不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
手動操作のとき、手動で回らない(回せない)	すでに全開(または全閉)になっている	手動で逆方向に回転させる (参照：8.試運転方法)
	アクチュエータにエアが供給されたままになっている	エアの元バルブを閉め、バイパスバルブを開いてください
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：10.部品交換のための分解方法)
	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く
	流体の影響（温度・成分・圧力など）により、バルブのトルクが増加している	使用条件を再確認する (参照：2.安全上のご注意)
エア操作で開閉しない	エアが供給されていない	エアを供給してください
	バイパスバルブが開いている	バイパスバルブのツマミを右回転させて閉じてください
	スピードコントローラの調整ツマミが右回りいっぱいになっている	ツマミを左回転させる (参照：8. 試運転方法)
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：10.部品交換のための分解方法)
	配管応力によりバルブのトルクが増加している	配管応力を取り除いてください (参照：4. 製品の仕様)
	バルブが流体の影響（温度・成分・圧力）によりトルクが増加している	使用条件をもう一度確認してください

不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
エア操作で開閉しない	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く
	流体の影響（温度・成分・圧力など）により、バルブのトルクが増加している	使用条件を再確認する (参照：2.安全上のご注意)
	アクチュエータの外部腐食の影響で動かない	直ちに使用を中止し、アクチュエータを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
全閉にしても流体が漏れる（内部リーク）	流体圧力が高い	最高許容圧力以下で使用する (参照：10.部品交換のための分解方法)
	ダイヤフラムまたはボディに摩耗またはキズがある	バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
	部品が欠落している	バルブを配管から取り外して該当部品を取り付ける、またはバルブを交換する (参照：10.部品交換のための分解方法)
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：10.部品交換のための分解方法)
	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く (参照：10.部品交換のための分解方法)

不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
バルブから流体が漏れる （外部リーク）	キャップナットがゆるんでいる	キャップナットを増し締めする （参照：5.配管方法）
	O リングにキズ、摩耗、溶解、または変質がみられる	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する （参照：10.部品交換のための分解方法）
	O リングの摺動面または固定面にキズ、摩耗がみられる	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する （参照：10.部品交換のための分解方法）
	バルブに亀裂または破損がある	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してバルブを交換する （参照：10.部品交換のための分解方法）
アクチュエータは作動しているがバルブが開閉していない	ステム、ダイヤフラム、または継手が破損している	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する （参照：10.部品交換のための分解方法）
アクチュエータが腐食している	水や薬液などの液体を浴びている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する （参照：10.部品交換のための分解方法）
バルブが腐食または変形している	水や薬液などの液体を浴びている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してバルブを交換する （参照：10.部品交換のための分解方法）

13. 残材・廃材の処理方法

 警告	
 強制	燃やすと有毒ガスが発生します。 ▶ 製品または部品を廃棄される場合は、各自治体の指針にしたがい、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。

お問合せ先

この製品に関するお問い合わせは、最寄りの販売店、弊社営業所、または弊社 web サイトの「お問い合わせ」までご連絡ください。

【取扱説明書】

ダイヤフラムバルブ・自在ダイヤフラムバルブ
エア式 A I 型
15～50mm
(自動バルブ)



本取扱説明書に記載されている製品名、ロゴ、その他の商標は、すべて旭有機材株式会社の登録商標です。これらの商標は、旭有機材株式会社の知的財産であり、許可なく使用することはできません。本書のいかなる内容も、明示または黙示による商標の使用許諾を与えるものではありません。登録商標に関する詳細については、旭有機材株式会社にお問い合わせください。

<https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

本書内容につきましては、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

2025.06